

子どもたちのSNSトラブル

SNSの現状

SNSとは「ソーシャル・ネットワーク・サービス」の略で、インターネット上でさまざまな人と交流できるサービスの総称です。中高生に人気があるのは、特定のメンバーで情報共有するLINEや、動画を投稿、閲覧できるTikTokやYouTubeなどのSNSです。小学生でもスマートフォンなどを持っていれば、自由にサービスを利用できます。

SNSのトラブル事例

SNSの利用で、子どもたちがトラブルに巻き込まれるケースが増えています。特にLINEは便利なコミュニケーションツールですが、最近ではいじめなどの原因になることが多くなっています。

例えば、LINEグループから強制的に脱会させ、その友達の悪口を言ったり、一部のメンバーでいわゆる「裏グループ」をつくって、特定の友達を誹謗中傷したりするいじめが発生しています。小中学生の発達段階では集団心理が強く働くことで、自分がいじめの対象にならないよう、誰かが発信した誹謗中傷などに同調してしまい、いじめがエスカレートすることがあります。

また子どもたちの被害で増加傾向にあるのは、不特定多数で情報交換をするコミュニティサイトで知り合った異性とのトラブルです。加害者は同世代や趣味の合う人

物になりすまし、言葉巧みに子どもたちを信用させ、個人情報聞き出します。個人が特定されてしまった場合に、性犯罪やストーカーなどの被害に発展してしまうケースがあります。

SNSのトラブル対策

SNSで発生するトラブルは、スマートフォンなどを持ったときからリスクが発生します。対策として重要なことは、それぞれの家庭内でルールを作り親子で守ることや、トラブルに遭った場合には学校や警察などの関係機関に相談することです。

【家庭内のルール作りのポイント】

○ルールを親子で一緒に考える

親が作ったルールを押し付けるのではなく、どのようなトラブルがあるのか、そのトラブルに巻き込まれないために、どのようなルールが必要なかを一緒に考えましょう。親子でルールを作れば、子どもがルールを守ろうとする意識が高まり、危険回避能力や知識を身に付けさせることもできます。

○定期的なルールの見直し

子どもの成長に合わせたルール改善が必要です。進学した時やテスト前、受験期、長期休業中の使用方法など、日頃の使用状況や時期に合わせて、親子で再確認することが大切です。

あさひ輝いた人々 第23回

地元飯岡のため 全力で取り組んだ人

よこた せいぞう
横田 清蔵 (1886～1964年)



横田清蔵は明治19(1886)年に飯岡で生まれ、教育者・実業家・政治家としてリーダーシップを発揮し、飯岡地域の発展に力を尽くしました。

昭和2(1927)年には教職を辞め、飯岡信用組合専務理事に就任しました。その活動としては、貯蓄を盛んにすることと、新しい産業の開発のほか、児童を主体とする児童産業組合を組織したことが挙げられます。

昭和7(1932)年に千葉県議会議員になり、併せて飯岡町長に就任しました。* 大きな仕事としては護岸の整備と築港を行い、飯岡の海岸の浸食を止め、漁業の発展に尽力しました。昭和21(1946)年には衆議院議員に当選し、護岸工事は昭和28(1953)年に国の事業として取り上げ

られ、昭和34(1959)年に完成しました。また、昭和57(1982)年には飯岡漁港が開港しました。

昭和22(1947)年には飯岡水飴工業協同組合を創設し理事長に就任しました。その後も水飴工場が増えていき、飯岡の一大産業になりました。この活躍が認められ、千葉県商工会連合会長、千葉県商工共済協同組合理事長の職に就きました。

昭和39(1964)年に亡くなり、正五位勲四等瑞宝章を受章しました。

清蔵は清廉潔白で先見の明があり、その行動力も素晴らしいものでした。

「飯岡の子どもは飯岡の大人だ」をモットーに、飯岡町民のため全力で仕事にあたりました。町民は清蔵をたたえ、昭和31(1956)年に横田会館を造りました。



横田会館(老朽化により平成28年に解体)

*当時は県議会議員と町長の兼職が可能でした。